

# 網走ほんりゅう教組

第439号  
網走教職員組合  
〒090-0052  
北海道北見市北進町4丁目5-31  
TEL0157(31)7551  
FAX 0157(31)7559  
ab-ky@forest.ocn.ne.jp  
12月6日

## 信頼される教職員組合をめざして 組合づくり学習会



12月3日(土)14時より4時間に渡って「組合運動づくり学習会」が北見市サントライ、研修室にて行われました。当初参加を予定していた宗谷教組の2名が急遽参加できなくなりましたが、道教組から楢木先生、宗谷教組から山本先生、全釧路教組から斎藤先生が参加し、網走教組からも11名の参加があり、全体で14名の学習会となりました。

普段なかなか集まらない組合員も「今日は行かなきゃだめな日だ」と思って参加するなど、多くの組合員が主体的に集まって組合の在り方について交流できたことは大変よかったです。ただ、あまり発言できなかった組合員も何人かいたようなので、参加した組合員全員から組合に対する思いをもっと引き出せるとよかったのかと思いました。それでも、執行部からの2本のレポートに対して、また別の視点からも様々な発言があり、教科書や指導要領、学力テストなど多くの問題はあるが、それらの良い面を取り入れながら保護者や同僚・行政などからも支持されるような教育実践をしていくことの大切さについても話がされました。今回の学習会を今回限りにせず網走教組のこれからについて更に学習を深めていく必要があります。また、道教組でもこれからの道教組運動のあり方や方向性についての学習会を企画してほしいと考えています。

夜の交流会はオホーツクビール園で行い、8名が参加しました。2次会、3次会と盛り上がりました。また、本部事務所にも2名が宿泊しました。

○勝田先生より学習会の感想が寄せられています。

組合の本質はもとより、学校・教科・保護者・地域・教職員の意識・管理職との連携・・・ありとあらゆる部面からの討論となりました。確かに時代は変わっていますが、「組合を通じてできることはまだある！」ことを実感できた時間でした。忙しい毎日ですが、困ったら組合に頼って愚痴の一つも言えればいいのか？がんばりましょう！  
(北見西小 勝田)

今回の改訂では、道徳の教科化、3・4年生で外国語活動の導入、5・6年生での英語の教科化、カリキュラムマネジメント、アクティブラーニング、パフォーミング評価などがキーワードとして挙げられます。「個人の内心を縛る恐れがある」こと、「教育内容ばかりか、指導方法や評価方法まで法的に統制すること」が大きな問題点として挙げられます。アクティブラーニングとして推奨されているジグソー学習を例にとります。

ジグソー学習とは、社会科学者のアロンソが生みだしました。協同学習とも言われています。一つの課題を出したら、第1段階としてグループ分けをしてそれぞれのグループに違う資料を渡します。手元にある資料と持っている知識で課題に対する内容を話し合い、別のグループの人に準備できるだけの準備を整えます。

第2段階としてグループを分散して別の資料を読んでいる人達と新しいグループを作り、最初のグループで話し合ったことを発表します。質疑を行いながら、他の資料や考えからの理解についても深めていきます。

新しい知識を身につけ答えを出したら、第3段階として元のグループに戻って答えについて話し合います。答えの導き出し方をグループでまとめ、最後にそれぞれのグループで発表を行います。

ジグソー学習は一つの答えを様々な角度から考えられるのが良い点です。ですが、その方法で学習しさえすればよいわけではありません。指導法だけを追い求め、「子どもたちの発達・実態・課題」から「どんな教材を使い」、「何を教えるか」ということを考えず、形だけを追い求め、きれいな授業をしようとする風潮がますます強められていくのではないのでしょうか？

学習指導要領はほぼ10年に一度の改訂が行われています。今回の改訂は平成三二年度の小学校本格実施を目指して進められています。過去の改訂とキーワードは以下の通りです。

昭和三三年々教育課程の基準としての性格、道徳の新設、系統的な学習  
昭和四三年々現代化カリキュラム、授業時数最大、詰め込み教育  
昭和五二年々ゆとりカリキュラム、土曜休業の試行  
平成元年々新学力観、生活科の新設、道徳教育の充実  
平成一〇年々生きる力、基礎基本、総合的な学習の時間の新設  
平成二〇年々脱ゆとり教育、学力低下、授業時数増加、小学校外国語活動

指導要領改訂  
子どもの発達・実態・課題  
何を教えるか  
形だけを追い求め、きれいな授業をしようとする風潮がますます強められていくのではないのでしょうか？  
パート1

## オホーツク まなびバ 第48回

11月12日、本部事務所において第48回まなびバが、組合員5名の参加で行われました。午前中は大坪先生、山本先生からの全道合研の環流報告。昼食後、午後からは、参加者からの実践報告が行われ、実践交流を行いました。

全道合研の環流報告では、山本先生からはテーマ討論の中の若者企画について、大坪先生からは教育の夕べで、「あすわか」の黒澤弁護士の憲法に関わるパネルディスカッションについて、話しがされました。夜の交流会にも参加し、宗谷教組、道教組、網走教組、30人ほどが集まって懇親を深めたとのことでした。

合研の分科会では、山本先生は、二日目に障害児教育の分科会に参加し、レポート「北みの国から」を発表し、課題を抱えている子に対して、悪いから怒られるのではなく、みんなで話し合っていくことの大切さなどを報告。大坪先生は、二日目とも障害児教育に参加し、1日目は「学校Ⅱ」の映画を見て、二日目は、凶工が嫌いだと言われていた子のちぎり絵の取り組みについて発表したということでした。

午後の実践交流では、大坪先生からは子どものペースで進めていくことの大切さ、若狭先生からは、体育のボール投げの学習で教育委員会にいる元ファイターズの選手に来てもらった実践が報告されました。まなびバも、今後に向けて再検討が必要です。多くの人達、若い人達が参加できるように方向性を検討して、少しずつ前進させていけたらと考えます。

